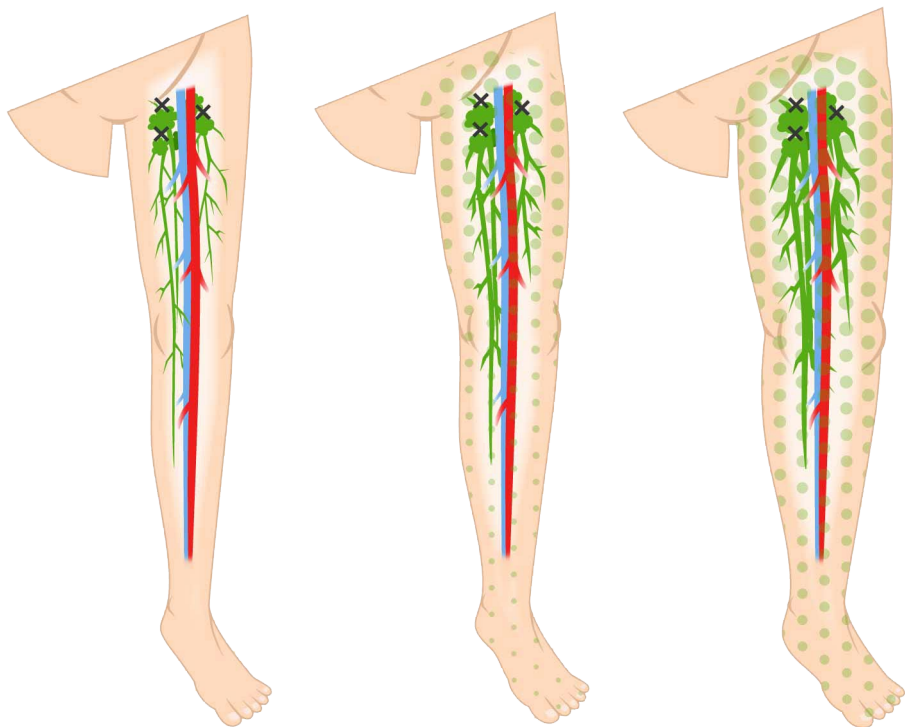


4 リンパ浮腫とは？

《①原因と起こりやすい部位》

リンパ液はリンパ管の中を流れています。手術や放射線治療・抗がん剤治療(タキサン系薬剤)などによってリンパ管やリンパ節の働きに障害を生じると、リンパ液の流れが悪くなります。流れが悪い場所では、リンパ液が過剰にたまり、皮下にしみ出してきてむくみが生じます。そのむくんだ状態をリンパ浮腫と言います。リンパ浮腫は治療後数か月で生じる場合と数年後に生じる場合があります。

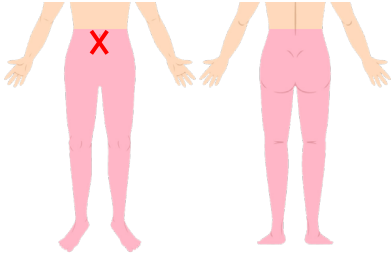


リンパ管やリンパ節
に障害が生じる

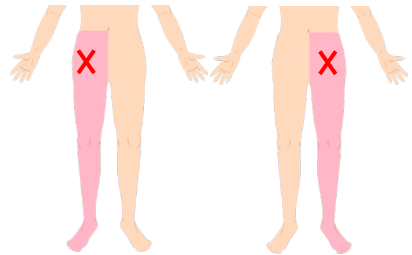
皮下にリンパ液がしみ出てきて、
むくみが生じる

リンパ浮腫が生じる可能性がある部位は、手術を受けた場合、手術でどこのリンパ節を切除したかによって異なります。

生じる可能性がある部位



骨盤内のリンパ節を取った場合、
両方の脚、^{あし}下腹部あるいは陰部に
生じる可能性がある



^{そけい}鼠径部のリンパ節を取った
場合、取った側の^{あし}下腹部およ
び脚に生じる可能性がある

実際の写真

^{あし}右脚に生じたリンパ浮腫です。むくみの程度は、人それぞれです。



《②症状・発見方法》

リンパ浮腫は早期発見が大切です。リンパ浮腫の症状を知っておくことや実際に^{あし}脚の太さを測ることで、早期に発見しやすくなります。

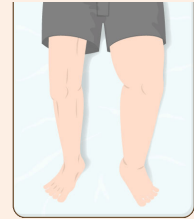
リンパ浮腫の症状



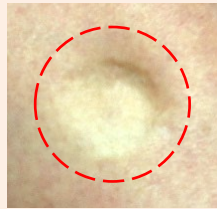
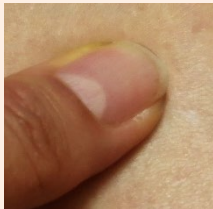
- 動かしにくい
- 重い感じがする



- 腫れぼったい感じがする
- だるい感じがする



- しわが目立たない^{あし}
- 脚の静脈の見え方に左右差がある



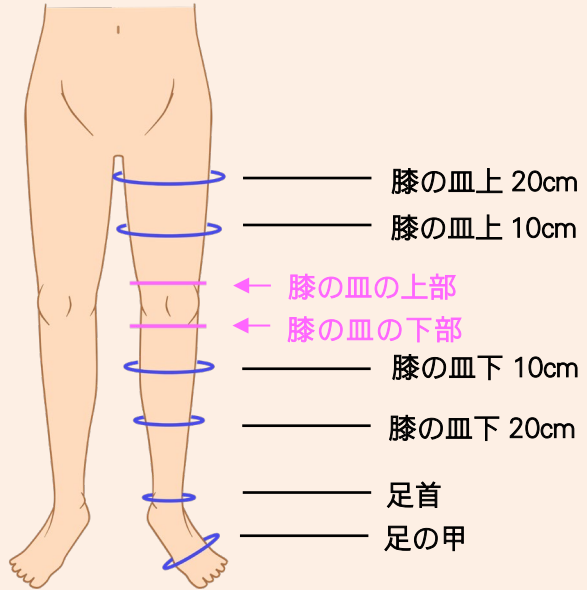
- 押したら痕がつく



- 皮膚が張ってくる
- 皮膚がつまみにくくなる
- 皮膚が硬くなる

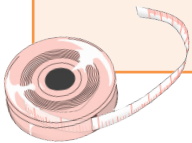
※これらの症状が出現しても、必ずしも「リンパ浮腫」であるとは限りませんので、正確な診断のために医師の診察を受けましょう。

計測方法の例



- 膝の皿の上部から上 10cm 及び 20cm
- 膝の皿の下部から下 10cm 及び 20cm
- 足首
- 足の甲

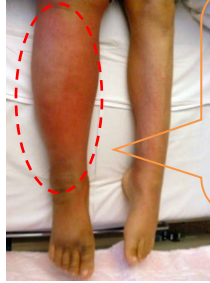
- ✿ポイントを決めて測りましょう
- ✿できるだけ測る時間を一定にしましょう



《③リンパ浮腫の重要な合併症》

リンパ浮腫の重要な合併症には、^{ぼうかしかきえん}蜂窩織炎、リンパ管炎などの炎症があります。リンパ浮腫が生じる可能性がある部位に発赤、熱感、圧痛などの症状が生じた場合は注意しましょう。

^{あし}右足の蜂窩織炎：
皮膚が赤くなっているのがわかります。



全身症状として、発熱を伴うこともあります。症状がある時には、体温も測りましょう。

もし症状が生じた場合は・・・

- 用手的リンパドレナージ・シンプルリンパドレナージや圧迫療法を中止し、安静を心がけましょう。
- 腫れている部分を挙上し、^{ひょうのう}氷嚢などで冷やしましょう。
- 冷却スプレーの使用や冷湿布を貼ることはやめましょう。
- かかりつけの医療機関に相談しましょう。

ワンポイントアドバイス①^{あし}一脚の冷却について

体の熱を取るために冷凍された保冷剤(アイスパック)を使用する事がありますが、保冷剤が硬いうちは体に密着しません。炎症がある時はできるだけ炎症部位全体を冷やした方が良いので、氷と水を入れた^{ひょうのう}氷嚢で冷やしましょう。ビニール袋で代用することもできます。



^{ひょうのう}
〈氷嚢〉



〈ビニール袋〉



ここで突然ですが・・・

リンパ浮腫の合併症のうち確実な診断と的確な治療・処置が必要になる蜂窩織炎^{ほうかしきえん}やリンパ管炎について、大切なことですので皮膚科医の立場からもう少し詳しく解説をします。

ほうかしきえん

○蜂窩織炎・リンパ管炎について

リンパ浮腫の重要な合併症には、蜂窩織炎やリンパ管炎があります。これらは、リンパ浮腫の状態にある箇所^{箇所}にケガや虫刺され、トゲが刺さるなどで起こる炎症、感染によって引き起こされます。前述のように、確実な診断、的確な治療・処置が必要です。小さなキズでも発赤、熱感、圧痛などの症状がある場合は、速やかに医療機関を受診しましょう。

○受診を前提にした応急処置について

蜂窩織炎やリンパ管炎に対する自己判断の処置は状態の悪化を招きかねませんので、決してお勧めできることではありません。よって、受診を前提に「とりあえずの応急処置」についてお伝えします。

①リンパ浮腫の部分が広い範囲で淡く赤い(びまん性紅斑)、その部分が熱っぽい(局所熱感)。しかし、明確な痛みは感じない。[軽症]

⇒普通の石鹸と素手でやさしく洗浄したのち、症状のある脚(あし)を挙上しましょう。この場合の冷却は「冷水で流す」、「濡れタオルで冷やす」を行ってください。その他には重いものをもつことや運動、入浴を避けましょう。

②びまん性紅斑が強い。または紅斑が細い線状に長い。明らかな痛みがある。または押して痛いところ(圧痛)がある。[中等症]

⇒①に加え、痛みのあるところは氷嚢で冷やしましょう。また、安静臥床を要します。

③紅斑に加え、紫斑(皮膚の内出血時にみられる紫紅色あるいは暗紫褐色の斑)や水疱形成がある。全身的な発熱がある。[重症]

⇒直ちに受診しましょう。消炎鎮痛剤や抗生剤の投与、時には入院を必要とします。